

企業名： 芦森工業

レポート名：統合レポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

→できる

芦森工業は創業 150 周年を迎える 2028 年を目前として、新たに会社としての Mission, Vision, Values を提示しているが、そのうちの Vision では当社が目指す将来の姿を「すべての人々に信頼されるグループであり続ける」としている。芦森工業が手掛ける事業は、主にエアバックやシートベルトなどを生産する自動車安全部品事業と上下水道や電気、ガスなどのインフラ整備に必要な製品を生産する機能製品事業である。このように、人々の暮らしに安心・安全を提供する役割を果たす企業として、人々との信頼関係を重視することは当然ではあるが重要なことであり、人々との間でそうした強固な関係の構築を目指すことは妥当であり、理解できると感じた。なお、当社は他に Mission として「命と暮らしを守る製品を提供すること」を、Values として「誠実に、ルールを守り、品質最優先のものづくりに取り組む」を掲げており、人々の命・安全を守るという非常に一貫した会社の理念を持っていると感じた。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

→できる

芦森工業は創業当社、繊維分野、特に製綱技術を強みとしていたが、その技術を発展させて 1967 年にシートベルトメーカーとして初めて JIS 規格の認証を受けるなど、自動車用セーフティ部品の生産が主力事業となっていくた。このように少し特殊な事業多角化を行ってきたからこそ、競合他社にはない繊維業由来の高度な技術を武器に国内にとどまらず世界 7 か国に自動車安全部品を輸出している。また、2021 年には豊田合成株式会社との業務提携を発表し、当業界内で一足早く次世代型の高性能シートベルトやエアバックの開発に向けた研究・開発を進めており、自動車の技術革新が進む中でそのような変化に自動車部品が対応するために今後も芦森工業の技術が必要になると考えられる。

また、機能製品事業ではインフラ整備時などにクレーン足場の安全処理のために用いられる円筒織物技術（パレスシート）工法を鹿島建設と共同で開発している。【1】芦森工業の繊維業由来の技術が生かされているこの技術はセメントを用いる従来の工法よりも環境に与えるダメージを抑えることができ、SDGs が注目される今、その技術はなくてはならないものになっている。

以上のように、芦森工業は主力 2 事業のいずれにおいても一定の競争優位性はあると考えられる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

→できない

今回読んだ統合レポート 2022 には競争優位性の持続性に直接つながるような記述はなかった。しかし、今後芦森工業が有する競争優位性を持続させるには新たな技術の研究・開発がどれだけうまくいくかにかかっているのではないかと考えた。現在競争優位性を持っているのは、芦森工業が創業以来発展させ続けてきた高度で最先端の技術があったからである。機能製品事業では、国内インフラの老朽化と耐震強化の要求の高まりにより需要が拡大している。先述したパレスシート工法はもちろん、防災や産業資材分野でも環境配慮がなされた技術を持つ芦森工業の競争優位性は持続する可能性が高い。しかし、もう一つの主要事業である自動車業界では EV 化が進み従来よりも自動車安全部品の需要が減少してきているのが現実で、統合レポートで言及されていた海外市場への製品輸出には競合他社（具体的には東海理化【2】や帝国繊維【3】）も力を入れているため競争優位性の持続につながるとは考えづらい。統合レポートでは言及されていなかったが、だからこそ豊田合成と業務提携を行って新規顧客を獲得できるような新技術の開発に本格的に乗り出したのだと予想される。今後この新技術開発がうまくいけば、自動車安全部品事業で競争優位性を維持・発展させられるのではないかと考えた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

→思う

芦森工業は、芦森グループ人材 vision を「高い専門性と幅広い視野、論理的展開力を有し、スピード感を持って問題解決ができる人」とし、具体的に向上心・実行力・発想力・責任感・統率力の 5 要素を重視する要素として提示している。具体的な取り組みとしては、「人事評価制度」と呼ばれるもので、全社員が期初に上司との面談を行い自己評価や上司によるフィードバックを受けることができるほか、それらを踏まえて今後の目標を設定する機会が設けられている。これは、芦森工業が比較的小さな企業であるからこそ行うことができる人材育成のための重要な取り組みとなっている。また、管理職、中堅社員、若手社員のそれぞれの層に対して必要な研修が実施されており、業務に必要な技術を学ぶだけでなく中堅社員にはリーダーシップについて理解を深める研修が用意されているなど、社員が年齢を問わず学び続けることのできる仕組みになっている。このように、芦森工業には一人の社会人として成長できる機会が与えられており、人的資本の価値向上には有効だと考えた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

環境保護のための取り組みを紹介するページでは、ここ数年に実際に排出した CO2 や廃棄物の量などのデータが詳しく公表されており、さらに他のページでも環境保護のための取り組みがたびたび紹介されていて企業としての環境問題に対する本気度が感じられた。

また、全体的に文章とイラストや画像・グラフの分量のバランスがちょうどよく、その内容もあまり専門的になりすぎていないながらも必要な情報はきちんと詳細まで紹介されており、より多くのステークホルダーに企業の現状を知ってもらえるような工夫がなされていた。

一方で、社長の考えが掲載されている「Top Message」というコーナーは少し分量が多く読むのが大変だと感じてしまった。このコーナーは統合レポートの中で唯一社長の思いをステークホルダーに届けることができる部分だと思うので、小見出しを付けたり重要箇所を下線を引くなどのちょっとした工夫をするだけでもより内容が伝わりやすく、また読む側の理解を促すことにつながるのではないかと感じた。

参考資料

- 【1】 鹿島建設株式会社 “企業情報 プレスリリース” 【オンライン】
<https://www.kajima.co.jp/news/press/201403/6c1-j.htm>
- 【2】 株式会社東海理化電機製作所 “IR 資料 中期経営計画” 【オンライン】
https://www.tokai-rika.co.jp/investors/library/mid-term_business_plan.html
- 【3】 帝国繊維株式会社 “経営戦略” 【オンライン】
<https://www.teisen.co.jp/company/strategy.html>